

生涯学習やまがた



CONTENTS

- ② 特集
生涯学習振興なくして地方創生なし 佐々木英和氏
- ⑤ 生涯学習Q & A
「社会教育主事」って何?どんなお仕事?
- ⑥ 生涯学習実践者インタビュー⑥
米沢少年少女発明クラブ 鈴木孝制さん
- ⑦ 地域の取り組みを紹介します
大石田町商工会青年部・戸沢村・浜田広介記念館
- ⑧ information
生涯学習関係職員スキルアップセミナー・洗心庵写真教室(初級編)・
洗心庵写真コンテスト・日本庭園を学ぶ講座

千歳園跡 歴史文化ゾーンを巡る②

山形県令三島通庸の殖産興業の一つに新農業の推進がある。当時は荒地であった、山形東高校付近一帯に四木三草及び和洋種の果樹園を作り、千歳園と命名した。三島県令は山形では見られない野菜や果樹などを栽培し、サクラノボを千歳園と霞城公園東の桜小路に植えたと言われている。その後県立山形中学校が建てられ、現在は山形東高校となり、敷地内に石碑が残っている。

※撮影は許可を得て行っています。学校敷地内への立ち入りはご遠慮ください。

特集 生涯学習振興なくして地方創生なし

「ひとづくり」と「まちづくり」との接続と循環

宇都宮大学地域連携教育研究センター 准教授 佐々木英和

今、少子高齢化による急激な人口減少を前に、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生する地方創生が叫ばれています。

まちづくりと生涯学習の関係性やまちづくりにおける生涯学習の役割を改めて考えるため、佐々木英和氏から寄稿いただきました。

「まちづくり」と「生涯学習振興」

言葉をそのまま言い換えたような定義になってしまいましたが、「生涯学習」とは、基本的に「一生涯をかけて学び続けること」を意味します。この営みは、ある個人が生を授かっただけから終わりを迎えるまでの長期にわたるので、老若男女を問わず、生きている限りは誰もが、その主体だとみなされます。

むしろ、「学習」は、学校だけで行われるものではなく、働いているときや遊んでいるときも含めて、日常生活の何気ない場面でも生じています。しかし、学校や公民館などが提供する学習機会が不十分な場合、ある個人が学習それ自体を目的として活動したいと考えても、不利な状況から抜け出せません。

「まちづくり」の可能性は注目されてきました。中曽根康弘総理大臣(当時)の直属で総理府(当時)に設置された臨時教育審議会が一九八七(昭和六十二)年に出した第三次答申では、生涯学習の基盤整備の施策の一つとして、生涯学習を進めるまちづくりが提示されました。ここでは、地方が主体性を発揮しながら、まち全体で生涯学習に取り組む体制を整備することが目的とされています。まちづくりは、一九八〇年代後半には、生涯学習振興のための手段として位置づけられていました。

これに対して、一九九〇年代後半以降は、「まちづくりに生涯学習の成果を生かす」という発想が主流になりました。実際、文部省(当時)が一九九〇(平成十二年)に出した生涯学習審議会答申「学習の成果を幅広く生かす―生涯学習の成果を生かすための方策について―」では、学習成果を生かす際の基本的な方向性として、「個人のキャリア開発」と「ボランティア活動」と「地域社会の発展」との三本柱を掲げた上で、「生涯学習による地域社会の活性化の推進」という文脈において、「生涯学習のためのまちづくり」から「生涯学習によるまちづくり」への意識の転換が必要であるとともに、学習成果がまちづくりに生かされる仕組みが必要となると述べられています。このように、まちづくりが目的で、生

プロフィール

佐々木 英和 [ささき ひでかず]

宇都宮大学准教授(地域連携教育研究センター)、栃木県生涯学習審議会会長。文部科学省生涯学習政策局生涯学習調査官などを歴任。現在、教育概念に関する研究を深めるとともに、学びを通じた人間関係づくりを進めたり、自治体の生涯学習プラン策定を指導したりするなど、幅広く実践を行っている。

涯学習振興が手段に位置づくという発想転換がなされています。

いずれにせよ、生涯学習振興の重要な分野として、まちづくりに焦点が当たり続けています。このような政策的動向を大きな背景として、「生涯学習」と「まちづくり」という二つの単語を接続した「生涯学習まちづくり」という言葉も普及しました。

「ひとづくり」なき「まちづくり」

それでは、国の理念レベルはともかくとして、「自治体における生涯学習まちづくり」は、現実にはどのような進んでいったのでしょうか。ここでは、「ひとづくり」と「まちづくり」との関係に着目することが大切です。

実際、現代的な意味で生涯学習がキーワード化したのは、「生涯学習そのもの」よりも、「一人ひとりの国民が生涯学習を進めることができるような環境を整えること」が社会的に必要かつ有効だと判断されているからです。ここで、国が責任を持ち、こうした社会的状態を国全体で盛んに実現していくこととする意味合いにおいて、「国民一人ひとりの生涯学習活動を振興すること」が、行政目標として位置づけられました。一九九〇(平成二二年)に「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」が成立し施行されて以来、「生涯学習振興」という表現が、行政関係者の間で一般化しました。そもそも、この法律が制定される以前から、生涯学習振興を実質化するために有効だとみなされた手段として、

学校教育であれ社会教育であれ、教育に直に携わってきた人は、まちづくりを進める上で「ひとづくり」が不可欠だと考える傾向にあります。教育関係者は、ひとづくりが基盤になってこそ「真のまちづくり」は成り立つと考え、事業やプログラムなどのソフト面の充実を必要条件だとみなします。

これに対して、「まちづくり」といった場合、何らかの建物を作ったり土地利用について考えたりするというように、もっぱらハード面を思い浮かべがちな行政関係者もいます。その典型例として、建設関連の行政に携わってきた人は、基本的に地図や設計図を思い浮かべながら、まちづくりを進めます。

このように、「まちづくり」という言葉に対するイメージは、人によって多様です。そのため、「生涯学習まちづくり」が掲げられても、必ずしもハード面とソフト面との両方が見ええられているとは限りません。

一九九〇年代前半には、当時の建設ラッシュに便乗する社会的ムードが追い風となり、全国各地の自治体で「生涯学習センター」と銘打った立派な建物が次々と建設されていきました。行政関係者の中には、こうした施策・事業こそが「生涯学習まちづくり」を意味すると取り違えた人がいるかもしれません。

たしかに、物理的な活動場所が存在

していなければ、実際に住民どうしが交流しながら互いに学びあうことは困難ですから、施設の充実が必要不可欠です。しかし、本来なら、ハコモノ建設は、その中身である住民活動を充実するための手段に当たるはずなのに、生涯学習振興行政についての見識が浅かったり、住民による社会教育活動があまり活発でなかったりする自治体では、生涯学習のソフト面を価値あるものにする方策が手薄なままでした。たとえば、立派な施設を用いて大きなイベントを開催することそれ自体が目的となつてはいても、それをきっかけとして住民一人ひとりの生涯学習活動を丁寧支援するという発想には立てなかつたのです。

こうして、「ひとづくり」の視点が欠



講座受講生どうしが交流しながら学びあう様子

落したまま、「生涯学習を進めるまちづくり」が事実上「生涯学習センターの建設を進めるまちづくり」へと置き換わってしまった自治体が続出しました。そこから一歩先に進んで、「住民が盛んに生涯学習活動を行うまちづくり」の域に至る自治体は少数でした。

「生涯学習のまちづくり」と「生涯学習でまちづくり」

それでは、そもそも「生涯学習まちづくり」をどのように把握したらよいのでしょうか。理論的考察として、「生涯学習」と「まちづくり」という言葉どうしの接続をめくり、「生涯学習のまちづくり」と「生涯学習でまちづくり」との二つの立場があることを確認することが大切です。たった一文字の違いですが、両者は大きく意味合いが異なります。

まず、「生涯学習のまちづくり」については、まちづくりが生涯学習の手段に位置するという意味で、「生涯学習のため、まちづくり」と言い換えて差し支えありません。ただし、個人々の学習の社会的広がりを考慮すれば、そのまちに在住・在勤する一人ひとりが生涯学習を行えるような環境が十分に醸成された地域社会を創造するという意

味で、それを「生涯学習振興のためのまちづくり」と言い換えるほうがより正確です。

たとえば、公民館・図書館・博物館などの社会教育施設や、生涯学習センターなどの施設を整備したり、高等教育機関等との連携を図ったりするなどして、個々の住民が選択しうる学習機会を質・量ともに充実させることができれば、「生涯学習振興のためのまちづくり」の必要条件是整います。その上で、こうして整備された社会環境の中で、住民の多くが実際に学習活動に打ち込んでくれれば、この「生涯学習振興のためのまちづくり」は十分条件を満たしたことになります。

これとは対照的に、「生涯学習でまちづくり」は、学習活動を進めるための社会環境が整うだけでは決して十分ではなく、ほとんどの住民が個々に熱心に学習する地域社会ができあがったとしても、それは決して完成には至りません。というのは、「生涯学習でまちづくり」は基本的に「生涯学習によるまちづくり」と言い換えるものであり、まちづくりを目的として、住民が生涯学習を進めることはあくまでも手段とみなされるからです。

たしかに、生涯学習を生きがいと感じ、いきいきと生きられている高齢者が増えて、まちが全体として活性化する

事態は頻繁に起きます。これは、「生涯学習振興」によってもたらされた「まちづくり」という意味では相当に成功しています。しかし、「生涯学習」による「まちづくり」の名にふさわしい水準の成功のためには、行政や地域住民が単に学習活動を行っていることだけに満足せず、まちづくりに対して、その豊富で多様な学習成果を意図的に生かそうとする姿勢が必要です。

たとえば、生涯学習講座で養成された人材が、互いの知識や経験を共有して学びあったり、新たに獲得した知識などをハード面の整備に具体的に活用したりするなどという経路で、その学習成果をまちづくりの実際の場面で生かしていくことができはじめて、「生涯学習」による「まちづくり」の成功とみなせます。だから、「生涯学習でまちづくり」では、「学習成果を生かす」ための各種の条件整備が大前提となるので、「学習成果の活用を社会的に振興すること」が必要条件となります。

いずれにせよ、理論的な基本として、「生涯学習のためのまちづくり」と「生涯学習」による「まちづくり」とでは、目的と手段とが真逆の関係にあります。また、「生涯学習まちづくり」において、「生涯学習のまちづくり」＝「生涯学習振興のためのまちづくり」と「生涯学習でまちづくり」＝「生涯学習の成果活用」

振興による「まちづくり」とでは、実際的な力点の置き方にも根本的違いがあります。

しかしながら、そのことは、両者について、もっぱら互いに対立する概念として「あれか、これか」という二者択一で捉えるべきだということの意味するわけではありません。それどころか逆に、両者は、互いを支えあったり、互いを促しあったりするような関係にあります。両方が揃って互いに補い合うことによつてこそ、相乗的に効果が生まれます。このとき、両者を有機的に接続して相互に好循環させる媒体がまさに「ひとり」なのです。



学習成果を生かしボランティア活動を行う様子

学習なくして活躍なし

では、「生涯学習まちづくり」について、そのまちで生活する住民の行動パターンをシミュレーションする形で説明してみます。

まず、「生涯学習振興のためのまちづくり」のおかげで整備された生涯学習環境の中で、誰もが様々な学習を進めることができます。その結果、学習活動を盛んに行う住民は、次第に学習成果を蓄積していきます。そのうち、自らの学習成果を自分自身の中だけにとどめておくことがもつたまいと感して、学んだ成果を生かしたいという欲求が高まってくる住民も出てきます。さらに、活動の選択肢の一つとして、自らの生活に密着した実践的かつ具体的な現場を選び、まちづくり活動の中で学習成果を発揮したいと感じ始める住民も出てきます。少しでも実際に活躍する機会を得られれば、「生涯学習でまちづくり」に参画する住民が増えることとなります。加えて、そうした住民の中には、「住民主体のまちづくり」の発展のために、まちづくりにつながる学習機会の充実を望む人も出てきます。

見方を変えれば、「住民自身による学習蓄積に乏しいまちづくり」は、結局は失敗に帰しがちです。たしかに、まちづくりを実際に進めていく人材を確保するための手取り早いやり方とし

て、コンサルタントやシンクタンクなどの外部機関に任せることは十分に可能です。しかし、外部人材から貪欲に学び取るうとする意志がある行政関係者や住民が多いならともかく、もっぱら一時しのぎの手段に依存しがちなまちづくりは、長期的には「まち壊し」の端緒を開く危険性すら高めてしまいます。

持続的・継続的なまちづくり活動を効果的に発展させたいのであれば、その地域における自前の人材の活躍こそが基本になります。新たな人材の発掘も含めて、地元で在住・在勤する人材に活躍の機会を得てもらうことが何より最優先になってくるのです。

そのためには、住民が活躍するための前提として、まちづくりに生かせるだけの十分な学習の蓄積を進めることを可能にする条件の整備が求められます。つまり、「生涯学習の成果活用」による「まちづくり」の大前提として、「生涯学習振興のためのまちづくり」の推進が不可欠なのです。たとえば、まちづくりに関するボランティア活動を盛んにしたいのであれば、「学習成果の活用」のそもそもの原点として「学習機会の充実」を図るためにボランティア養成講座を開催するという筋道がありえます。とにかく、一人ひとりの個人に焦点を当てた言い方をすれば、「学習なくして活躍なし」という原理が成立します。

生涯学習振興なくして 地方創生なし

生涯学習振興の目的は、「まちづくりのための人材」の育成に限定されるわけでは決してありません。住民が地域について多面的に学べるような機会を用意するとともに、一個人が学習した成果をまさに自分自身のために有効活用することが推奨される必要があります。結果にとらわれず学習それ自体を愉しむという姿勢も尊重されなければなりません。とはいえ、大人も子どもも「学び」それ自体を尊ぶ地域であればあるほど、まちづくりに効果的に参画できる人材の確保がスムーズに運びやすいという事実も強調できます。

最近になって頓に用いられ始めた「地方創生」について言えば、まちづくりに関する学習蓄積がない住民が多いのもかかわらず、それが掛け声だけで首尾良く運ぶはずがありません。たしかに、学習に熱心な住民が大勢いるからといって、それが直に地方創生につながるわけではありません。しかし、老若男女を問わず、学習が効果的に促されるような環境を醸成することが地域振興の必要条件だという意味において、「生涯学習振興なくして地方創生なし」と確実に言えるのです。

生涯学習に関する用語のちょっとした疑問にお答えします。今回は、生涯学習支援者として活躍する「社会教育主事」を取り上げてみました。

生涯学習

ア・ラ・カルト

生涯学習Q&A

「社会教育主事」って何?どんなお仕事?

社会教育主事は、社会教育法（昭和24年制定）に基づき都道府県・市町村の教育委員会事務局に置くこととされている専門職員です（同法第9条の2第1項）。その職務は「社会教育を行う者に専門的技術的な助言と指導を与える」（同法第9条の3第1項）ことです。具体的には、①教育委員会事務局が主催する社会教育事業の企画・立案・実施②管内の社会教育施設が主催する事業に対する指導・助言③社会教育関係団体の活動に対する助言・指導④管内の社会教育行政職員等に対する研修事業の企画・実施など、多岐に渡っています。^{*1}図書館司書や博物館学芸員と同様、生涯学習を支援する専門職として重要な役割を担っているのです。

溯ること大正14年に、「地方社会教育職員制」が発せられ、全国に社会教育主事を置くものとされたのが始まりです。戦後、昭和26年の社会教育法改正で同法に設置根拠が明記されました。昭和26年改正時は、都道府県に必置、市町村に任意設置でしたが、昭和34年の改正で、市町村も必置となりました。人数及び配置率については、平成8年

は全国で6,796人（山形県132人）、91.3%でしたが、平成23年は2,518人（山形県62人）、60.8%（山形県31.4%）と、減少しています。^{*2}それは、未設置市町村解消を目的に昭和49年から始まった派遣社会教育主事の国庫負担制度が平成9年度末で廃止されたことや、自治体職員の合理化などが要因と考えられます。

現在、社会教育主事として任用されるには、必要な単位を大学等で取得する他、地方公務員として社会教育関係職1年以上もしくは教育関係職5年以上の経験が必要です。高い専門性だけでなく、経験も重視されているためです。

平成20年の社会教育法改正により、社会教育主事は、学校を含む多様な関係者・団体・施設との連携・調整を行うコーディネーターの役割が新たに求められるなど、より幅広い現場での活躍が期待されています。

社会教育主事は、あなたのまちの教育委員会や社会教育施設で活躍しています。是非、お気軽にお訪ねください。

^{*1}：文部科学省HP「社会教育主事・社会教育主事補について」より。

^{*2}：文部科学省社会教育調査より（但し、山形県配置率は山形県教育委員会調査より）。人数は、都道府県・市町村・組合の社会教育主事の合計。配置率は、市町村における社会教育主事（派遣社会教育主事を含む）の配置率。

生涯学習実践者インタビュー⑥

米沢少年少女発明クラブ
事務局長 鈴木孝制氏 たかのり

地域の様々な分野で活躍する方に光をあて、その活躍を支える「学び」のあり方を探ります。今回は、ご自身も研鑽をつみながら、長年に渡り「米沢少年少女発明クラブ」を主宰していらっしゃる鈴木孝制さんにお話を伺います。

Q 「米沢少年少女発明クラブ」とは？

ものづくりの楽しさを伝え創造性を育もうと、小学校4～6年生とその保護者をクラブ員として、工作や実験を行っています。山形大学工学部内を主催に、大学の現任教職員や元教職員が指導員になっていることで、小学生レベルから大学の教養課程までの実験・工作を行うことができ、学校以外の貴重な学びの場になっています。主催は発明協会と米沢工業会（山形大学工学部同窓会）、後援が山形大学工学部と米沢市です。そもそも、発明クラブは発明協会の呼びかけで全国にできたものですが、米沢ではなくならうとしていました。当時、私は大学の学科事務に携わる中で経営学を学び、改めて人づくりの大切さを感じ、理科離れが進んでいた小学生に実験や工作の楽しさを伝える活動や県の理科支援特別講師な



科学フェスティバルの様子(中央右側が鈴木さん)

Q 活動で大切にしていることは？ 継続の秘訣は？

最も大切にしてしていることは「安全」。

どの活動を始めていました。教職を持っていなかったので通信教育や市の講座で生涯学習指導員などの学習もしました。それらがきっかけで発明クラブを再興して欲しいと依頼を受けました。

Q 活動で印象に残っているできごとは？

科学フェスティバルに興譲館高校の理科科の生徒さん達が手伝いに来ていますが、その中の一人が何年も経っているのに私のところに来て「以前発明クラブでお世話になった〇〇です。その節は大変有難うございました」と挨拶をしてくれたことです。私自身、これまでたくさんの方に世話になり今があります。その恩返しを次の世代にしたいと思って活動しているところです。ですから、「世話になった」という感謝の気持ちがあれば、誰かに恩返しして

指導員募集中

指導員を広く募集します。有償ボランティアです。主に土曜日の午後毎月2回クラブを開催しています。

詳しくは takasuzu@yz.yamagata-u.ac.jp まで

Q これからの目標(夢)を教えてください。

活動の継続、新たなリーダーが育つこと。そして、クラブOBが山形大学工学部を卒業して社会人になり活躍して欲しい。そのきっかけが発明クラブにあったと言ってもらえたら嬉しいですね。欲を言えば、山形大学工学部の教職員になり、クラブの指導員になってもいいです。



モーターカーレースの様子

くれるのではないかと思うので、嬉しかったですね。

このまちに
注目!

地域の取り組みを紹介します

大石田町 商工会青年部

「ちよつとオモシヤイポスター制作で店舗をPR」

■ 内容 ■

町民はもちろん、町外の方にも認知してもらええる活気のある商店街にしていきたいと、これからの大石田を担う商工会青年部部員のお店でちよつとおもしろく、話題性のある「ポスター」を制作しました。第三者からの視点の方がより「オモシヤイポスター」になるのではないかと、芸工大から先生、学生を招き、ワークショップの開催や青年部各事業所への訪問、写真撮影を行い、一緒に作成し完成に至りました。

■ ここが大変 ■

ゼロからのスタートだったので、当初は部員間でも作成に関して温度差がありました。ワークショップを重ねるごとに部員のやる気が出てきました。結果的に予想以上の良いポスターが出来ました。

■ ここがうまくいった ■

ワークショップで部員の性格や店舗の雰囲気を知ること、自らの店舗の強みを再発見し、店作りを活かせるようになりました。またポスター作りを通じて若手事業主の青年部加入へとつながり、会員増加数、増加率ともに県内1位となりました。

ポスターがお店を知ってもらうきっかけになり大石田の商店に足を運んでいただけるようになって、来店客数が伸びました。

参加者
Voice



戸沢村 子どもを育て、子どもと共に育つ

「戸沢村地域共育活動団体について」

■ 内容 ■

戸沢村には、各地域に古くから伝わる伝統行事や伝承の技、貴重な自然が数多くあり、古老から次の世代へと受け継がれてきました。この貴重な文化とその素晴らしさを子どもたちに伝える活動を行っているのが、地域共育活動団体で15団体あります。子どもたちは、地域の大人と共に直接体験を行うことで、戸沢村のよさ、素晴らしさを実感します。また、子どもたちと共に活動することが地域指導者の楽しみや喜び、自信へとつながっていきます。

■ ここが大変 ■

今後、各団体の意義と意識の高さを維持しながら、次の世代の指導者を発掘・育成し、円滑な代替わりを進めていく必要があります。

■ ここがうまくいった ■

地域共育活動団体の活動は、地域活動のみならず、総合的な学習の時間等を活用した「地域共育カリキュラム」として、学校教育にも及んでいます。教員と各団体の代表が協議し、子どもにとってより効果の高い活動を設定しています。

地区の中で会ったり学校へ行ったりしたとき、あいさつをしてくれた「炭焼き先生」と声をかけられたりするのがうれしいです。地域の伝統文化のよさや人の温かさを今後も伝えていきたいですね。

参加者
Voice



高島町 浜田広介記念館

「ひろすけ童話講座―泣いた赤おに―」

■ 内容 ■

日本のアンデルセンと呼ばれ、名作「泣いた赤おに」で知られる浜田広介は、高島町出身の童話作家です。地元でも「愛と善意の広介童話」と括りにされがちですが、今回は、時代や風土、昔話、類話などの観点からその本質に迫ろうとする試みです。併せて「椋鳥の夢」や「龍の目の涙」などを講読し、幼少期や戦後疎開時の旧居跡や通学路も探索します。受講者として学校関係者、社会教育の指導者なども想定し、授業や読み聞かせの基盤となる文献や逸話を紹介できればと、座学と見学を組み合わせました。

■ ここが大変 ■

参加しやすい土曜日(午前)の講座としましたが、学校行事などとの重なりで苦勞しました。専門に偏することなく興味関心を深めることが困難でした。

■ ここがうまくいった ■

地元中心の広報ながら、東京や山形市など遠方からの参加者を含め、四回講座の第二回から定員を超えました。広介童話そのものの力に負うところが、大。

「泣いた赤おに」の初題が「おにのさうだん」で、出版時期により本文の用語表現が違うなど、広介の作品に対する深い思い入れがわかり、感動しました。

参加者
Voice



—— 洗心庵からのお知らせ —— 平成28年写真コンテスト 一般向け

洗心庵の園内で撮影した写真のコンテストを実施します。庭園の四季を切り取った、たくさんの作品をお待ちしております。詳細は財団ホームページをご覧ください。

テーマ 自由

部門/作品形態 単写真のみ(組写真は不可)

(a)一般の部 サイズ:四ツ切

(b)高校生の部 サイズ:A4サイズ以上

受付期間 平成28年11月1日(火)~平成29年1月31日(火)

写真教室~初級編~ 一般向け

楽しみながら写真について学べる初心者の方のための写真教室を実施します。

日時 11月6日(日)10:00~12:00

講師 山形県写真連盟会長 阿部直美氏

定員 15名

参加費 無料

申込方法 電話による事前予約

応募期間 10月30日(日)まで

※定員になり次第受付を終了致します。

日本庭園を学ぶ講座 一般向け

日本庭園の文化、歴史を紐解き、日本庭園の魅力や鑑賞に役立つ知識を楽しく学ぶ講座を実施します。

日時 11月5日(土)10:00~12:00

12月3日(土)10:00~12:00

全2回の連続講座

講師 志村高秀氏

(内外緑化株式会社社長、日本造園学会会員)

定員 30名

参加料 1,500円

申込方法 電話による事前申込

応募期間 11月3日(木)まで

※定員になり次第受付を終了致します。

抹茶のもてなし 一般向け

とき:10月9日(日)

菓子代:200円 先着35名様

美しい庭園を鑑賞しながら茶道の先生による立礼式呈茶をお楽しみいただけます。

問い合わせ先

山形県緑町庭園文化学習施設 洗心庵

TEL 023-664-2800

生涯学習関係職員 スキルアップセミナー 関係者向け

生涯学習・社会教育関係職員を対象に他県の様々な生涯学習事例を学びながら他県に発信できる、これからの生涯学習講座やイベントづくりを学ぶ研修を県内4地区で行います。

【庄内地区】11月16日(水)庄内町余目第2公民館

【最上地区】11月17日(木)最上総合支庁講堂

【村山地区】11月30日(水)遊学館

【置賜地区】12月1日(木)置賜総合支庁西庁舎講堂

講師:松田道雄氏(だがしや楽校発案者)

地域学交流集会 関係者向け 一般向け

地域学実践者や地域学・まちづくりに関心のある方向けの事例報告・ワークショップを予定しています。

日時 11月26日(土)午後

会場 遊学館第一研修室

講師兼コーディネーター 廣瀬隆人氏

(北海道教育大学教授)

美術工芸品紹介②

ホームページやパンフレットで紹介されていない遊学館内の美術品をご紹介します。



ブロンズ壁版(遊学館3階)

「山形の四季」をテーマに日本の伝統文様(春:梅桜文、夏:波地文、秋:秋草文、冬:千鳥文)を取り入れ、「遊学館」の現代建築に調和した趣のものとして制作されたものです。製法は、原形は茶の湯釜における焼成法の笹ペラ技法を応用、鑄造はブロンズ鑄物鑄造、着色は伝統技法におけるオハグロ着色となっています。

編集 後記

先月、生涯学習の基本課題等を学ぶ講演会を「まちづくりと生涯学習」をテーマに、佐々木英和先生を講師にお迎えし行いました。その中で、しっかり「聞くこと」の難しさを体験する機会がありました。普段は聞いているつもりになっているのかもとのこと。しっかり聞いて、相手から言葉を引き出せるようになりたいです。(Y)

次回発行は1月の予定です。

編集発行 (公財)山形県生涯学習文化財団 平成28年9月発行

山形県生涯学習センター 〒990-0041 山形市緑町1-2-36[遊学館]

TEL 023-625-6411 FAX 023-625-6415 E-mail yama@gakushubunka.jp

URL <http://www.gakushubunka.jp/yugakukan/>

■開館時間 9:00~21:00[夜間利用が無い場合は19:00まで]

■休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

洗心庵 [山形県生涯学習センター分館] 〒990-0041 山形市緑町1-4-28

TEL 023-664-2800 FAX 023-664-2816

■開館時間 9:00~21:00[夜間利用が無い場合は19:00まで]

■休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始